

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長所信

## 全員全力！

～信じる心で誇りと未来を創造しよう～

公益社団法人乙訓青年会議所  
理事長 達城 英治

はじめに

1979年、「今こそ我々は、郷土愛を再認識し、自らの研鑽を通じて友情を深め、明るい豊かな社会の建設に貢献しなければならない」という高い志のもと、全国で659番目の青年会議所として乙訓青年会議所は誕生致しました。そして、これまでの長い歴史のなか、英知と勇氣と情熱をもった先輩諸兄姉が乙訓(まち)の発展に寄与してこられ、その軌跡は私たちの乙訓青年会議所への「誇り」に繋がっています。乙訓地域は人口も緩やかに増加し、高い利便性と豊かな自然や優れた歴史文化遺産により、調和のとれた乙訓(まち)として発展しております。しかし、人口減少、少子高齢化、情報の複雑化による環境の変化と今後さまざまな社会変革が予想されており、私たちの乙訓(まち)においても先行きが不透明であることは事実です。私たちは、そんな先行きが不透明な時代であったとしても、乙訓(まち)を明るく導くことのできる存在であり続けなければなりません。

今こそ、先輩諸兄姉が築きあげてこられた、市民、行政、地域諸団体との繋がりや信頼という土台で活動できることへの感謝を胸に、2019年度に策定した5ヵ年活動計画、未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に向かい、目指すべき方向性を共有した誇れる仲間とともに、何事にも全力で取り組む必要があります。激しい時代の流れのなかでも一際輝く、誇れる乙訓(まち)であり続けるために。

全員全力！～信じる心で誇りと未来を創造しよう～

誰にも未来のことはわかりません。現在の行動や経験が自分の未来にどう繋がるのか理解できない時もあります。しかし、私はこれまでのJC経験において、どんな機会に対しても全力で取り組んできました。その結果、自分の強みと弱みがわかりました。また、家族や従業員の尊さにも気付くことができました。そして、事業や課題に対し共通の目的をもち、ともに立ち向かったことで信頼し合える仲間ができました。私は、そんな宝物ともいえるような経験を乙

訓青年会議所メンバーにも得て頂き、激しい時代の流れのなかでも一際輝く、誇れる乙訓(まち)であり続けるという共通の目的に向かい全員全力で立ち向かって参ります。

2020年度はスローガンに「全員全力！」を掲げ、「～信じる心で誇りと未来を創造しよう～」をテーマに活動します。誇れる乙訓(まち)であり続けるために、乙訓青年会議所メンバー全員が全力で行動して欲しい想いを「全員全力！」と表しました。一人ひとりが自身や仲間、組織の可能性を素直に信じ全力で行動することで、目の前の機会がより意味のあるものとなります。そして、知らなかった知識、対人能力、管理能力、経営能力などの多くの学びを得ることができ、それぞれの成長に繋がります。また、全力で行動する姿は仲間や周囲の共感を集めます。そんな人財が集まり40周年に新たに策定した未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に向け運動を展開すれば、乙訓(まち)に住まう方々の意識変革や地域の課題解決に向けた前進という良い影響を与えます。そして、乙訓(まち)に与えた影響、自身の成長、互いに信頼できる仲間という成果こそが乙訓青年会議所への「誇り」に繋がり、その「誇り」は、私たちの運動の原動力となります。まず私が先頭に立ち、組織のリーダーとして自身や仲間、組織の可能性を信じ、仲間とともに全員全力で行動できる環境の構築に尽力します。私たちが「誇り」に思う、乙訓(まち)をより良くする乙訓青年会議所の組織風土を繋ぐなかで、宝物となる経験を糧にして、私たちのより良い未来を創造しよう。

全力でやろうと思える人間関係で「誇り」ある組織を創造しよう

今、乙訓青年会議所の活動に「元気がない」との声があるのはなぜでしょうか。メンバー同士の関わり合いのなかに、互いへの敬意や行動に対する感謝が薄れつつあるからだと考えています。しかし、様々な職種や年代の青年経済人が集まる私たちは、それぞれの能力を活かし補い合うことで、大きな力を生むことができます。互いを尊重する心や相手に感謝を伝える習慣と、誇れる乙訓(まち)を創るという共通の目的をもつことこそが人間関係を築く基礎となり、私たちの乙訓(まち)の未来を創る運動をより大きく昇華させることに繋がります。今こそ、運動の方向性の共有と互いにプラスを与え合える関係性を軸に、仲間とともに何事にも楽しく全力で取り組める環境を構築する必要があります。

まずは、より良い乙訓(まち)の創造には私たち全員が全力で行動することが必要であり、その行動を自身のさらなる成長や周囲への共感、そして、より良い乙訓(まち)の創造に繋げる意識を統一する機会を創出します。また、地域や世代を越えた交流の場やLOMを越えた事業において、新たな経験や学びを楽しく享受する時間のなかで、互いを知り本音を話せる関係を構築します。そして、活動を通じた相互交流のなかで、相手の心に寄り添う思いやりの心と素直に相手を信じる心で、互いにプラスを与え合える関係を構築します。さらに、全力で活動に取り組むには、家族や従業員の皆様の支えがなくてはなりません。家族や従業員の皆様と交流できる場を創出し、活動への理解を深めて頂きます。また、さらに強固な組織となるために、卒業を迎える仲間の活動への敬意と感謝の心をもつ機会を創出し、組織の結束

力を高めます。そして、全力で取り組める環境を次代に繋ぐために、一年間の労をねぎらうとともに、私たちの運動にご協力頂いた方々へ感謝を伝える機会を創出し、さらなる協力関係を構築します。青年会議所は人の気持ちで成り立ちます。それぞれの貴重な時間を使う活動に「やって当たり前」はありません。先輩諸兄姉が築いた組織の土台と、ともに活動する仲間、家族や従業員の皆様への感謝の心を持ち、「全力でやろう」と思える人間関係を築くことで、「誇り」ある組織を創りましょう。

#### 組織への「誇り」に繋がる運動を発信しよう

今、地域の方々がもつ、私たちへのイメージはどのようなものでしょうか。乙訓青年会議所は長年にわたり、広報誌やSNSを用いて運動や活動内容の情報を発信してまいりましたが、未だに認知度は充分ではありません。地域に必要とされる乙訓青年会議所として認知され、その存在価値をさらに高めるべく、組織の目指すべき方向性への理解と、私たちの運動や活動内容を受け手の目線に立ち心を動かす情報発信で、地域からの共感や信頼を集める必要があります。

地域からの共感や信頼を得る発信に繋げるため、創立を祝う場において、創立当初から現在に至る活動の軌跡や関わった人々の想い、各種事業の成り立ちや組織の方向性を改めて学ぶ機会を創出し、メンバーに組織の運動の本質を理解して頂きます。また、受け手の目線に立ち心を動かす情報発信をすべく、広報誌やホームページの活用と、迅速かつ積極的な発信のなかで、工夫を凝らした発信方法や発信ツール、マスメディアとの連携を図り、地域からの共感や信頼を集めます。そして、メンバーが地域の枠を越えて活動する機会を得た学びを乙訓青年会議所の運動に活かすことで、より良い乙訓(まち)の創造に繋がります。メンバーに青年会議所の強みである出向への意欲を高める機会を創出し、私たちの運動のさらなる推進力に繋がります。さらに、運動発信を担う重要な立場として、どのような趣旨、姿勢で取り組んでいるかを内外に発信し、メンバーの様々な事業への参画に繋がるとともに、地域の方々からの共感を集めます。周囲からの共感や信頼の声は、組織への「誇り」に繋がります。そして、その「誇り」は私たちが活動に全力で取り組む原動力となり、その結果、私たちの運動はより大きなものとなります。組織の運動への深い理解による「全員が広告塔」という理想を目指し、組織の認知度と存在価値を高めてまいりましょう。

#### 人の心に影響を与える人財になろう

全国的な人口減少、少子高齢化、情報の複雑化などの環境の変化により、令和の時代は社会や地域を取り巻く環境や課題も徐々に変化していく「過渡期」を迎えます。乙訓地域においても多様化、複雑化する課題の解決には、多くの人のアイデアや行動が必要です。地域に

根差す私たちの活動への共感から、多くの人を協働に導く「人の心に影響を与える人財」を育成する必要があります。

「人の心に影響を与える人財」になるには、物事に向き合う心構えが重要です。物事がうまくいかない結果を「失敗」と捉え、責任を他に転じていては誰からの信頼も得ることができません。また、そのような人物の行動は誰の心にも影響を与えることはできません。自分に関わることは全て自ら決断し、その結果に責任をもたなければなりません。まずは、他からの信頼を得る人財となるために、何事も主体的に捉える心を養う機会を創出し、人の心に影響を与える土台を築きます。そして、その土台のうえで、人の心に共感やワクワクといった感情を生み出すために、本質を見極める力と遊び心ある創造的思考能力を向上する機会を創出し、行動の動機を刺激するために必要な資質を向上します。さらに、心に与えた影響を多くの人の行動に繋げるため、相手を意識した最適なコミュニケーションを地域の方々とともに学ぶ機会を創出し、共感から協働に繋げる資質を向上します。多くの仲間の行動で組織の運動の質を向上させるためにも、まず、私たちが「人の心に影響を与える人財」になろう。私たちの乙訓(まち)が、より良い影響を与える人で溢れる明るい未来となるように。

#### 心に響くアプローチで仲間の輪を拡げよう

青年会議所の会員数は全国的にみると近年では、卒業生数と年間退会者数の合計値を入会者数が上回った年はありません。乙訓青年会議所も2019年度は14名の卒業生を送り出し、期首会員数が例年を下回る状況です。会員数の低下は事業規模の縮小による地域への影響力低下や会員の学びの機会の減少が危惧され、魅力ある組織としてあり続けることの弊害となりかねません。今後も地域に根差した運動で、魅力ある組織としてあり続けるためにも、多くの人との出会いを通じて、それぞれの人の心に響くアプローチで、ともに運動を展開する仲間を一人でも多く集める必要があります。

まずは、多くの人との出会いは行動でしか得ることができないことを認識し、会員拡大とは地域貢献に繋がる究極の青年会議所活動であることをメンバー全員で共有する機会を創出します。そして、過去の拡大手法や成功事例を改善、改良するとともに、何が相手の心を動かすのかを常に模索して、メンバー全員で会員の拡大に繋がります。また、新たなメンバーの入会前後の丁寧なサポートを行うほか、同期の仲間として今後の活動の糧となる体験ができる機会を創出します。組織の活動は人によって創られます。多くの同じ想いをもち目の前の機会に全力で取り組む人が集まる組織の運動は地域に大きな影響を与えます。私たちの運動をさらに昇華させるきっかけとなり、誰にとっても有意義な魅力ある組織であり続けるべく、全力で仲間の輪を拡げてまいりましょう。

#### 未来を拓く青少年が育つ環境を構築しよう

今の子供たちは、柔軟で豊かな感性や国際性を備えるなどの良い傾向がある一方、他者への思いやりや人権尊重の心の低下、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されています。また、諸外国と比べて自尊感情が低く、未来に夢を描けないという指摘もあります。乙訓(まち)の明るい未来を創造する私たちは、未来を担う子供たちが社会変革の予想される時代のなかでも、夢を描き、それに挑戦できる心を備えた未来を拓く人財として育つ環境を構築する必要があります。

私たち大人の日頃の姿勢こそが子供たちの健全な育成に重要です。まずは、子供たちの未来を真剣に考える「カッコいい大人の背中」を見せるため、地域の方々とともにモラル向上に取り組む機会を創出します。そして、文化少年団事業や継続事業では、子供同士での様々な体験を通じて、自尊感情や互いを大切にすることを学ぶ機会を創出し、子供への徳育を推進します。さらに、青少年を育成する地域諸団体との連携を推進し、地域の子供たちが育つ環境の構築に尽力します。また、甚大化する災害から乙訓(まち)の未来を担う子供たちを守るために、災害時の対応も含めた防災に対する教育の機会を創出します。次なる時代は、新しい価値を希求する若者の文化が社会発展の原動力となると考えます。乙訓(まち)の未来を担う子供たちが、自分を信じることでのびのびと能力を発揮でき、乙訓(まち)や自分の未来を拓けるよう、全力で青少年育成に努めてまいりましょう。

## 乙訓愛でまちの未来を創造しよう

乙訓地域は京都市と隣接し交通の利便性も高く、また、竹をはじめとする豊かな自然や優れた歴史文化遺産という恵まれた地域資源を有していますが、その恵まれた地域資源である社会基盤や特産品が地域の発展に活かされていない現状があります。「自分たちの乙訓(まち)を自分たちで創る」という意識は、乙訓愛により一層強くなります。乙訓青年会議所メンバーの約6割が乙訓地域外出身という現状も踏まえ、私たちはさらなる地域の発展を目指し、地域の魅力や特性の深い理解から乙訓愛を育み、乙訓(まち)の未来を自分事と捉えたくて40周年に新たに策定した未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に歩みを進める必要があります。

まずは、乙訓青年会議所メンバーが地域のリーダーとして、乙訓愛を育み、乙訓(まち)への深い理解に繋げるため、メンバーが乙訓(まち)の魅力や課題に関心をもつ機会を創出します。そして、継続事業や各種まちづくり事業を通じた市民、行政、地域諸団体との連携による互いの信頼関係の深化や地域資源の発信で、住まう人に乙訓愛を伝播し、多くの人が多様な価値観で地域の発展に取り組む市民主導型のまちづくりへと導きます。さらに、乙訓(まち)の未来の創造には、自らが住まうまちに希望を描くことができる主体者意識をもつことが重要です。それぞれの地域社会において、代表を決める投票は自らが住まうまちの希望を選択するという大切な行動であり、候補者の情報を提供する場を設け、自らが住まうまちの未来への関心を高めます。住まう人の視点をなくすことなく事業の成果を追求すれば、必ず多く

の人に想いは届き、私たちの運動への参加、参画に繋がります。未来Vision「まちと人が愛を実感する乙訓の実現」に向け、乙訓愛をもつ人を増やすことで、乙訓(まち)の明るい未来を創造してまいりましょう。

#### 誇れる組織を次代に引き継ごう

乙訓青年会議所には、これまでの40年間で先輩諸兄姉が築き上げてこられた組織体系や会議運営方法があります。平均在籍年数の低下や経験不足のまま役職を担うなかであっても、先輩諸兄姉から受継がれた誇れる組織を継続的に発展させるには、定款、規程、守るべきルールや役割への意識をメンバーに浸透させる必要があります。また、単年度制の運営においても入念な計画と徹底した検証により事業を洗練し次代に引き継ぎ、私たちの地域に根差した運動をさらなる高みへ導いていかなければなりません。そして、公益法人としての自覚と責任をもった運営により、地域の方々からの負託と信頼に応え続ける必要があります。

まずは、メンバー一人ひとりに活動の方向性や決まりごと、それぞれの役割への意識を高める機会を創出します。そして、委員会の想いの詰まった事業に対し建設的で活発な議論を重ねるために、各委員会での情報の共有や意思の疎通を図り、実り多い会議運営を推進します。また、各事業にSDGsを紐付け推進することで、事業をグローバルな基準で位置づけ、私たちの運動の影響力と認知度向上に繋がります。さらに、公の益を追求するという視点で、公益性を保つ予算編成と、適切な予算執行への審査、各種権利に関するコンプライアンスの審査、業務や財務に関する情報開示により、公益法人としての社会的責任を果たす運営をします。また、私たちの運動を継続的に発展させるために、メンバー全員が青年会議所活動への意識を高める機会を創出し、高めた意識を次代に繋がります。妥協しない運営と地域にたしかかな影響ある事業構築を推進することで、組織への矜持を育み、胸を張って次代に引き継いでまいりましょう。

#### 全力で活動できる環境を創ろう

私たちが日々活動する乙訓青年会議所の組織において、正副役員の行動や姿勢は常にメンバーの模範とならなければなりません。また、メンバーの活動への意欲を常に喚起し続ける存在である必要があります。

誉めるときも叱るときも、その言葉の重みは日々の行動や姿勢によって決まります。「ええもんはええ」「あかんもんはあかん」という乙訓青年会議所の伝統を繋ぐ意味でも、正副役員立ち振る舞いを今一度見直し、正副役員としての自覚と責任をもって一年間活動します。そして、全ての事業、全てのメンバーに常に目を配り、労い、感謝し、時には悟らせ、誰もが全力で活動できる環境を創りましょう。

むすびに

乙訓青年会議所メンバー全員が、まだ見ぬ未来を信じ、仲間とともに全力でその役割や役職を全うすることで、一人ひとりが組織に属する「誇り」をもてたなら

私たちは、自身の成長、誇れる仲間という今後の人生の糧を得て、輝く人財となるでしょう。

乙訓青年会議所は、輝く人財が人を集め、地域に大いに影響を与える運動を展開できるでしょう。

乙訓(まち)は、私たちの展開する運動で明るい未来となるでしょう。

「やるときはやる」からこそ「楽しい」

自分や仲間、組織を素直に信じ、全力で取り組んでいこう！

未来がより良いものとなるように。

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所

【スローガン】

**全員全力！**

【テーマ】

**～信じる心で誇りと未来を創造しよう～**

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所

【基本理念】

まちと人が愛を実感する乙訓の実現

一人ひとりが全力で活動できる組織の構築

乙訓の明るい未来を創るひとづくり

【基本方針】

全力でやろうと思える人間関係で「誇り」ある組織を創造しよう

組織への「誇り」に繋がる運動を発信しよう

人の心に影響を与える人財になろう

心に響くアプローチで仲間の輪を拡げよう

未来を拓く青少年が育つ環境を構築しよう

乙訓愛でまちの未来を創造しよう

誇れる組織を次代に引き継ごう

全力で活動できる環境を創ろう



2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
事業計画

- (1) 青少年育成、教育文化スポーツ交流事業  
文化少年団事業（年9回の開催）  
青少年育成研修事業の開催  
乙訓ふるさとふれあい駅伝の参画協力
- (2) まちづくり事業  
まちづくり事業の開催  
二市一町の地域ネットワークの拡大
- (3) 地域経済及び地域振興の研究、研修事業  
経営研修事業の開催  
人づくり研修事業の開催  
地域創生に繋がる事業の開催
- (4) 会員交流及び組織維持目的事業  
会員拡大を目的とした説明会等の開催  
新人会員の勉強会の開催
- (5) J C I ・公益社団法人日本青年会議所・近畿地区協議会・  
京都ブロック協議会への参加・協力  
J C I : A S P A C ・世界会議・各種事業  
公益社団法人日本青年会議所：京都会議・サマーコンファレンス・  
全国大会・各種事業  
近畿地区協議会：近畿地区大会・各種事業  
京都ブロック協議会：京都ブロック大会・各種事業

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
正副・委員会 活動計画

**1. 正副**

- ①各委員会の活動への連携・支援
- ②各会議における理事の職務執行の監督
- ③会員拡大活動への連携と協力
- ④まちづくり事業、青少年育成事業への参加・協力
- ⑤災害時における支援への参加・協力
- ⑥8月例会・納涼会の開催

**2. 常任理事**

- ①各委員会の活動への連携・支援
- ②各会議における理事の職務遂行の促進
- ③会員拡大活動への連携と協力
- ④まちづくり事業、青少年育成事業への参加・協力
- ⑤災害時における支援への参加・協力
- ⑥出向先役員としての職務遂行

**3. 全委員会**

- ①会員拡大活動への連携と協力
- ②まちづくり事業、青少年育成事業への参加・協力
- ③災害時における支援への参加・協力
- ④出向者支援に関する事項

**4. 誇れる組織づくり室**

**(信頼構築委員会) 【全力でやろうと思える人間関係で「誇り」ある組織を創造しよう】**

- ①1月例会・新春交歓会の開催
- ②3LOM合同交流会の開催(亀岡開催)
- ③12月卒業式・忘年会の開催
- ④各種懇親会の設営・運営
- ⑤家族交流会の開催
- ⑥会員及び特別会員との親睦に関する事項
- ⑦同室委員会への連携と協力

**(共感創造委員会) 【組織への「誇り」に繋がる運動を発信しよう】**

- ①京都ブロック協議会会長公式訪問の開催
- ②4月メモリアル100%出席例会の開催
- ③10月例会の開催
- ④行政・地域諸団体の情報の収集及び管理
- ⑤青年会議所活動及び地域活動の外部発信並びに会報「乙訓新聞」の制作・発行及び管理（年12回）
- ⑥公式ホームページの管理
- ⑦LOM内外各種事業の記録データの管理
- ⑧LOM外情報に関する内部発信
- ⑨各事業案内の取りまとめ及び参加促進に関する事項
- ⑩JCI・公益社団法人日本青年会議所・近畿地区協議会・京都ブロック協議会・各地青年会議所に関する案内・参加動員に関する事項
- ⑪同室委員会への連携と協力

## 5. 心動かすひとづくり室

### （人財育成委員会）【人の心に影響を与える人材になろう】

- ①3月例会の開催
- ②7月例会の開催
- ③11月オープン例会の開催
- ④公益社団法人日本青年会議所・協働運動の実践、連携、推進
- ⑤公益社団法人日本青年会議所セミナープログラムの受講と推進
- ⑥同室委員会への連携と協力

### （魅力拡大委員会）【心に響くアプローチで仲間の輪を拡げよう】

- ①2月例会の開催
- ②会員拡大活動に関する情報管理と更新
- ③会員拡大活動の実施と検証
- ④入会説明会の開催
- ⑤新入会員の入会に至るまでのサポート
- ⑥新入会員の入会後のサポート
- ⑦新入会員入会式の設営・運営
- ⑧FTセミナーの開催
- ⑨同室委員会への連携と協力

## 6. 未来のまちづくり室

**(青少年育成委員会)【未来を拓く青少年が育つ環境を構築しよう】**

- ①6月オープン例会の開催
- ②ケイジャーズカップ実行委員会への連携
- ③乙訓文化少年団の運営
- ④乙訓地方小学生駅伝大会委員会への連携
- ⑤広域な連携を推進し市民主導へ導くための事業の共同開催
- ⑥防災ネットワークの構築及び防災意識を醸成する事業開催
- ⑦二市一町の行政・各諸団体との連携
- ⑧同室委員会への連携と協力

**(地域未来創造委員会)【乙訓愛でまちの未来を創造しよう】**

- ①5月例会の開催
- ②9月例会の開催
- ③広域な連携を推進し市民主導へ導くための事業の開催
- ④各種選挙における公開討論会の実施
- ⑤二市一町の行政・各諸団体との連携
- ⑥同室委員会への連携と協力

**7. 総務室**

**(総務財政委員会)【誇れる組織を次代に引き継ごう】**

- ①役員・スタッフセミナーの開催、事務事項説明資料の作成と配布
- ②12月例会の開催
- ③総務及び庶務に関する事項
- ④事務局の管理運営に関する事項
- ⑤会員名簿及び基本資料の作成
- ⑥会員の褒賞・表彰及びブロック等への事業褒賞申請に関する事項
- ⑦総会及び理事会・正副理事長会議の設営・運営
- ⑧議案の管理に関する事項
- ⑨財務、会計一般に関する事項
- ⑩財務、コンプライアンス会議の設営・運営

公益社団法人乙訓青年会議所  
第2次収支予算書  
2020年1月1日から2020年12月31日まで

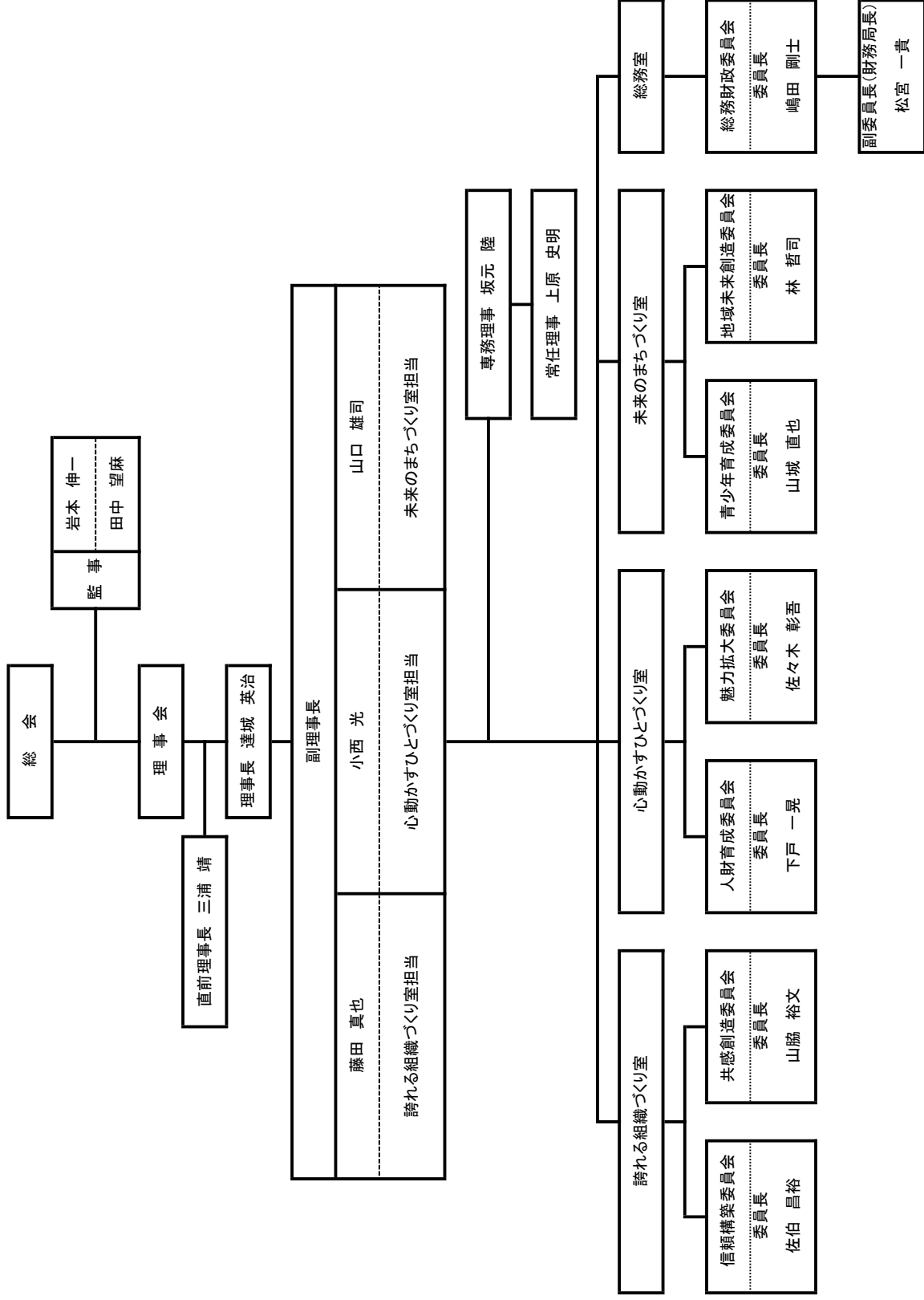
(第1法)

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
①特定資産運用収入	5,000	5,000	0	
特定資産利息収入	5,000	5,000	0	例年5,000円で予算立て 利率によって変動
②入金会収入	1,700,000	1,140,000	560,000	
新入会員入金会収入	720,000	720,000	0	@60,000円×12名(年間12名の入会者を想定)
特別会員入金会収入	980,000	420,000	560,000	@70,000円×14名(2019年度卒業生)
③会費収入	7,270,000	9,480,000	△2,210,000	
正会員会費収入	6,370,000	8,580,000	△2,210,000	@130,000円×49名(1月1日現在の正会員数)
新入会員会費収入	900,000	900,000	0	月に1名ずつ、年間12名の入会を想定
賛助会員会費収入	0	0	0	
④事業収入	400,000	400,000	0	
事業費繰入収入	0	0	0	
登録料収入	400,000	400,000	0	文化少年団@10,000円×40名
預り金収入	0	0	0	
⑤補助金等収入	0	0	0	
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	
国庫助成金収入	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	
⑥寄付金収入	750,000	1,510,000	△760,000	
飛竹会寄付金収入	0	500,000	△500,000	
歴代理事長会寄付金収入	0	310,000	△310,000	
その他寄付金収入	750,000	700,000	50,000	2019年度まちづくり事業協賛金予算額
⑦雑収入	41,500	41,500	0	
受取利息収入	1,500	1,500	0	
京都ブロック協議会受入収入	0	0	0	
その他雑収入	40,000	40,000	0	乙訓JCじゃがいもクラブ事務局費20,000円、JCカード手数料※例年通り
<b>事業活動収入計</b>	<b>10,166,500</b>	<b>12,576,500</b>	<b>△2,410,000</b>	
<b>2. 事業活動支出</b>				
①事業費支出	4,172,000	8,953,500	△4,781,500	
総務財政委員会	157,500	221,000	△63,500	役員セミナー、12月例会
正副	50,000	0	50,000	8月例会・納涼会
信頼構築委員会	790,000	0	790,000	1月例会・新春文芸会、12月卒業式・忘年会
共感創造委員会	100,000	0	100,000	4月メモリアル100%出席例会、10月例会
人材育成委員会	400,000	0	400,000	3月例会、7月例会、11月オープン例会
魅力拡大委員会	131,000	0	131,000	2月例会、入会説明会、FTセミナー
青少年育成委員会	1,133,500	0	1,133,500	6月オープン例会、乙訓文化少年団、乙訓文化少年団募集
地域未来創造委員会	1,150,000	0	1,150,000	5月例会、9月例会
40周年特別委員会	0	5,400,000	△5,400,000	1月新春、4月メモリアル例会、9月例会、記念誌の発刊、40周年PR
JAYCEE育成委員会	0	230,000	△230,000	2月例会、6月例会、11月例会、FTセミナー
JCネットワーク構築委員会	0	700,000	△700,000	10月例会、12月卒業式
防災教育委員会	0	1,305,500	△1,305,500	5月オープン、8月例会、文化少年団(募集含む)
広報戦略委員会	0	550,000	△550,000	3月オープン、7月例会
特別事業費支出	260,000	547,000	△287,000	災害時拠出金、公開討論会、3LOM合同交流会
預り金支出	0	0	0	
②管理費支出	5,185,257	5,943,896	△758,639	
会議費支出	407,000	400,000	7,000	総会、総務、正副、理事会他会場費、まちづくり実行委員会
給料手当支出	1,860,000	1,860,000	0	事務局員 @155,000円×12ヶ月
退職給付費用	108,500	108,500	0	月額給与155,000円×70%を毎年積立
福利厚生費支出	350,000	350,000	0	事務局員社会保険料、対内向けの慶弔金等
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	事務局員交通費
通信・発送費支出	474,102	478,990	△4,888	電話代、切手、定例発送 ※正会員への定例発送(サーキュラー・チラシ)は無し
消耗品支出	260,000	210,000	50,000	2020年度スローガン幕、未来ビジョン横断幕、封筒、文具他
リース料支出	93,312	93,312	0	コピー機1年間 7,200円×1.08×12ヶ月 60ヶ月満了後年額8,640円(税別)
修繕費支出	0	0	0	
印刷製本費支出	85,000	85,000	0	総会資料印刷費、コピー機印刷費等 ※本年度も基本資料は作成致しません。
光熱水料費支出	0	0	0	
賃借料支出	335,367	365,367	△30,000	@35,367×1ヶ月 28,000円×3ヶ月、27,000円×8ヶ月
インフォメーション関係費支出	197,000	595,000	△398,000	おとくに新聞、乙訓ホームページ変更料
保険料支出	0	0	0	
租税公課支出	6,000	6,000	0	印紙代
渉外費支出	40,000	40,000	0	対外向けの慶弔金、電報等
雑支出	868,976	951,727	△82,751	ネットバンキング使用料、JCバッヂ、会員ネームタグ、会計士手数料、京都会議登録料他
管理・運営予備費支出	0	300,000	△300,000	
③負担金支出	1,261,057	1,629,170	△368,113	
JCI負担金支出	98,332	131,820	△33,488	@1,612円×(49名+12名)
日本JC負担金支出	335,000	420,000	△85,000	
基本金支出	45,000	45,000	0	会員数50名迄が30,000円 25名増す毎に15,000円を追加
付加金支出	290,000	375,000	△85,000	@5,000円×(49名+前期入会6名)+@2,500円×後期入会6名
近畿地区協議会負担金支出	106,400	137,000	△30,600	
基本金支出	2,000	2,000	0	
付加金支出	104,400	135,000	△30,600	@1,800円×(49名+前期入会6名)+@900円×後期入会6名
京都ブロック協議会負担金支出	436,000	555,000	△119,000	
基本金支出	30,000	30,000	0	
付加金支出	406,000	525,000	△119,000	@7,000円×(49名+前期入会6名)+@3,500円×後期入会6名
国際協力資金支出	111,325	142,350	△31,025	@1,825円×(49名+12名)
日本JC出向者負担金支出	0	0	0	受益者負担のため
WeBelieve購読料支出	174,000	225,000	△51,000	@3,000円×(49名+前期入会6名)+@1,500円×後期入会6名
京都会議登録料	0	8,000	△8,000	2019年度より
京都会議ブロックサイト登録料	0	10,000	△10,000	2019年度より
<b>事業活動支出計</b>	<b>10,618,314</b>	<b>16,526,566</b>	<b>△5,908,252</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△451,814</b>	<b>△3,950,066</b>	<b>3,498,252</b>	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
<b>1. 投資活動収入</b>				
①特定資産取崩収入	4,750,000	2,900,000	1,850,000	
会員基本基金資産取崩収入	4,350,000	500,000	3,850,000	
周年事業引当資産取崩収入	0	2,000,000	△2,000,000	
文化少年団基金取崩収入	400,000	400,000	0	
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
<b>投資活動収入計</b>	<b>4,750,000</b>	<b>2,900,000</b>	<b>1,850,000</b>	
<b>2. 投資活動支出</b>				
①特定資産取得支出	4,300,000	500,000	3,800,000	
会員基本基金資産取得支出	0	0	0	
周年事業引当資産取得支出	500,000	500,000	0	
特別会計積立金	3,800,000	0	3,800,000	
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
<b>投資活動支出計</b>	<b>4,300,000</b>	<b>500,000</b>	<b>3,800,000</b>	
<b>投資活動収支差額</b>	<b>450,000</b>	<b>2,400,000</b>	<b>△1,950,000</b>	
<b>III 財務活動収支の部</b>				
<b>1. 財務活動収入</b>				
①借入金収入	0	0	0	
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>2. 財務活動支出</b>				
①借入金返済支出	0	0	0	
<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>IV 予備費支出</b>				
当期収支差額	△1,814	△1,550,066	1,548,252	
前期繰越収支差額	1,814	1,550,066	△1,548,252	
次期繰越収支差額	0	0	0	

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所

組織図



2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
会 議 構 成 員

		理 事 会	正副理事長会議
理 事 長		達 城 英 治	○議長
副理事長		小 西 光	○
副理事長		山 口 雄 司	○
副理事長		藤 田 真 也	○
専務理事		坂 元 陸	○
常任理事		上 原 史 明	○ ▲
理 事	(人財育成委員会 委員長)	下 戸 一 晃	○ ▲
理 事	(信頼構築委員会 委員長)	佐 伯 昌 裕	○ ▲
理 事	(魅力拡大委員会 委員長)	佐々木 彰 吾	○ ▲
理 事	(総務財政委員会 委員長)	嶋 田 剛 士	○ ▼司会
理 事	(地域未来創造委員会 委員長)	林 哲 司	○ ▲
理 事	(青少年育成委員会 委員長)	山 城 直 也	○ ▲
理 事	(共感創造委員会 委員長)	山 脇 裕 文	○ ▲
理 事	(総務財政委員会 副委員長)	松 宮 一 貴	○司会 ▼
監 事		岩 本 伸 一	□ □
監 事		田 中 望 麻	□ □
直前理事長		三 浦 靖	□ □

※公益社団法人乙訓青年会議所定款第17条第3項の定める副理事長の職務代行順位は上段よりとする。

○：構成員

□：常時出席の上、発言できる

▽：常時オブザーブ

▲：議長の要請を受けて出席する

理事会議事録：総務委員長

乙訓地域では、二市一町に様々な課題が溢れており、課題解決に対して、より多くの人による発想力や行動力が重要であり、乙訓（まち）がその様々な課題に立ち向かう人びとで溢れた活気ある乙訓（まち）でなくてはなりません。乙訓（まち）の課題解決に立ち向かう、メンバー一人ひとりや乙訓（まち）の人びとが、中心となり周囲の人びとに影響を与え協働に導くことのできる「人の心に影響を与える人財」へと成長する必要があります。

まずは、3月例会では、我々が人望を得られる人財となるために、何事においても自分事と捉え前向きに明るく活動する心を学び、当事者意識をもつことで、課題や物事に対して誠実な対応と責任感をもつ重要性を認識して頂きます。そして、7月例会では、課題に取り組む姿勢が人に共感を生むことを知って頂くために、課題に疑問を抱き、本質を見極める力と柔軟な発想力で自由に物事を考える機会を創出することで、ともに楽しく考えを巡らすことが共感へと繋がることを学んで頂きます。さらに、11月オープン例会では、課題に立ち向かう人びとを増やすために、共感したことを行動に移す動機のきっかけを知り、人の心に響く魅力的な念いの伝え方を地域の人びととともに学ぶことで、課題解決へ人を導く先導者へと成長して頂きます。また、メンバーの人としてのスキルを向上するために、日本青年会議所セミナープログラムを受講推進することで、青年経済人としての意識醸成に努めます。さらに、日本青年会議所が展開している事業を理解するために、人財育成に関連性のある事業を参加推進することで、学びをもち帰り活動に活かして頂きます。

むすびに、人財育成委員会の名の通り、メンバー全員の学びとなる事業の構築に全力で努めます。メンバー全員が自らの成長を実感し、「変革時代の先導者」となり、今後自身の直面する課題に人びとを巻き込み、課題解決へと立ち向かう人財へと成長して頂きます。



様々な職種の青年経済人が集まり、高い志と熱い想いで運動を展開してきた乙訓青年会議所は、尊敬し合う心や感謝の気持ちと、一人ひとりの能力があれば、全員が誇れる乙訓（まち）を創る力を生み出せる可能性があります。新しい時代に応じた運動を通して、「One for all, All for one」の精神と、メンバー同士のさらなる強固な人間関係で、「明るい豊かな社会の実現」という目的を共有する組織となる必要があります。

まずは、1月例会・新春交歓会では、より良い乙訓（まち）を創造するために、「全員全力！」の想いを理解し、地域へ活動の発信をするとともに、一年の門出を祝うことで、全力で活動する意識の向上に繋がります。そして、3LOM合同交流会では、本音で語り合える関係を築くために、相互交流ができる事業を開催することで、LOMや世代を越えた人間関係の構築に繋がります。さらに、家族交流会では、全力で活動に取り組める環境を築くために、家族や従業員の皆様との交流や感謝を伝える場を創出し、JC活動の素晴らしさを理解して頂きます。また、卒業式では、組織の団結力を高めるために、卒業生の功績を披露し、お世話になった方々への敬意や感謝の心をもつことで、現役メンバーの今後の活動意欲へ繋がります。そして、忘年会では、一年間の活動を今後の発展に繋げるために、メンバーの活動を労い、活動にご協力頂いた方々への敬意と感謝を伝える場を創出することで、強固な協力関係を築きます。さらに、各種懇親会では、メンバー同士の絆をさらに深めるために、楽しい場と感謝や労いの場を創出することで、信頼関係の構築に繋がります。

最後に、委員会メンバーの強みや弱みを理解し、誰からも信頼してもらえる人間となれるように行動していきます。そして、「日々感謝」の気持ちを忘れることなく、委員長である誇りと向上心をもって、2020年度が一生涯の財産となるように活動していきます。

近年、青年会議所の全国会員数は減少傾向にあり、乙訓青年会議所では近年初となる期首会員数が60人を下回り、会員数の減少による事業予算の縮小が招く基盤の衰退と地域に与える影響力の低下が危惧されています。我々は先輩諸兄姉より受け継がれてきた情熱と志を守り、今後も地域に影響を与え続ける組織を継続するとともに、我々の運動を継承してくれる仲間を一人でも多く集め、地域に根差した運動を展開していく必要があります。

まずは、2月例会にて組織が一丸となり拡大意識の醸成を図るために、組織の現状と危機を共有し、拡大活動がもつ多くの学びと同志を増やす必要性について周知することで、メンバー全員で会員拡大は究極の青年会議所活動であることを共有する機会を創出します。そして、年間を通して行う入会説明会では、多くの出会いを確実な入会へと繋げるために、委員会内で過去のデータ、拡大手法、成功事例を検証、改善することで、すべてのメンバーを巻き込んだ会員拡大を展開します。さらに、女性の社会進出が増加している社会情勢を参考に、会員拡大の新たな可能性を開拓するために、組織内での男女両立ができる環境を推進することで、女性会員増加を意識した積極的なアプローチを展開します。また、次代を担うリーダーとしての意識を高めて頂くために、FTセミナーを開催し、事業へ参加する意義や組織のルールを理解して頂くとともに、FMメンバー同士の絆を構築することで、今後の活動への原動力へと繋げます。そして、心動かすひとづくりに取り組むために、人財育成委員会と連携し、乙訓青年会議所に必要な魅力あるリーダーを育成します。

本年度、魅力拡大委員会は府内12青年会議所のなかで、1番の拡大を達成することを責務とし活動します。そして、委員会メンバーが一致団結の精神をもち会員拡大に邁進すれば、乙訓青年会議所への情熱と誇りをもった次代のリーダーへと成長すると確信します。

1979年の創立以来、「明るい豊かな社会」の実現を目指す乙訓青年会議所は、在籍年数が短く経験不足のメンバーが役職を担う現在においても、地域の方々からの負託と信頼に応えることができる存在でなければなりません。地域に根差した運動を展開する組織として先輩諸兄姉が築き上げてこられた会議運営方法と組織体系を継承するとともに公益法人として今まで以上に法的責任だけではなく社会的責任を果たしていく必要があります。

まずは、運動に取り組む協働体制を確立するために、役員・スタッフセミナーを開催し、理事長に2020年度の方向性を示して頂くとともに役員・スタッフに各自役割の重要性を理解して頂くことで、役職の自覚と責任の醸成に繋がります。そして、公益法人としての存在意義を明確にするとともに社会貢献的責任を果たすために、綿密な予算編成を行うことで、公益性の高い運動を展開します。さらに、有意義な会議運営に繋げるために、各委員会と連携し、入念な計画と徹底した検証を行うことで、議案の精度を高めます。また、より効果の高い事業を構築するために、財務管理を行うことで、適切な予算執行に繋がります。そして、組織の運動を独善的に完結させないために、SDGsを理解、周知し、事業とSDGsの関連性を見出すことで、持続可能な社会の形成に寄与します。さらに、規範意識の高い組織運営を行うために、組織の管理体制を強化することで、倫理法令遵守の意識を根付かせます。また、乙訓青年会議所の運動を継続的に発展させるために、12月例会を開催し、互いに功績を称え合うことで、次年度以降への活動意欲の向上に繋がります。

むすびに、総務財政委員会は下支えをする委員会に非ず、より効果のある事業構築へと導き、青年経済人として風紀を保つべく、先頭に立ち、全ての委員会を牽引する存在であるとともに、自他ともに認められる影響力と存在感のある誇り高き組織運営へと繋がります。

乙訓地域は利便性に優れ、豊かな自然や優れた歴史文化遺産に恵まれていますが、多様化する社会や環境変化のなかで、持続可能な乙訓（まち）づくりの実現に必要とされる本質的要素を追究しなければなりません。我々は目の前にある地域と真摯に向き合うなかで、地域の様々な可能性を検討するとともに、地域や人びととのつながりに喜びを生み出し、誰もがわがまちとして愛し誇れる乙訓（まち）の創造に向けて邁進する必要があります。

まずは、5月例会において、メンバー自身が乙訓（まち）についての魅力や課題に関心をもつために、豊富な地域資源について知識を深め、地域に対する愛着を形成する機会を設けることで、「乙訓（まち）のために」という思いを沸きあげます。そして、9月例会において、後に開催される事業に向けてメンバーの士気を高めるために、事業の真の価値と協力体制を確認し合い、事業をともにやり遂げる意識を共有します。さらに、乙訓（まち）づくりの主体者意識を高めるために、地域に根ざして生きている手ごたえを実感して頂くとともに、地域に住まう人びとの乙訓愛を醸成する事業を開催し、長期的かつ市民主導の乙訓（まち）づくりへと導く礎を築きます。また、未来を担う若者に政治を身近なものとして感じて頂くために、候補者が掲げられる政策が市民の生活に如何に影響するかを討論して頂く機会を設け、自身の一票に対する責任感を高めます。そして、乙訓（まち）の未来を切り拓く方向性を共有するために、二市一町の行政、地域諸団体とのつながりや協働を促し、連携の質を高めることで、乙訓（まち）づくりの生産性と創造性を高めます。

我々地域未来創造委員会は「心を動かす」をテーマとして、常に意識変革の姿勢を見失うことなく乙訓（まち）づくりを実践致します。委員会メンバー一人ひとりが敬意と感謝の精神をもち一年間全力で活動し、乙訓（まち）の人びとの心を動かす委員会となります。

日本人は歴史的に謙虚であることを良しとする文化をもっていることから、自己肯定感が低い傾向があり、子供たちが自分に自信をもちにくく、人間関係に問題や様々な不安を抱える環境のなかで、未来に希望をもつことが難しいといえます。乙訓青年会議所は未来を担う子供たちを、人との繋がりを前向きに捉えて、仲間の大切さや自分に自信をもって挑戦する心を備えた、未来を切り拓くことができる人財へと育成していく必要があります。

まずは、ケイジャーズカップでは、選手一人ひとりが練習の成果を出し切り輝いて頂くために、実行委員会と密な連携を取ることで、スムーズな大会運営に繋がります。そして、乙訓文化少年団事業では、子供たちに前向きに挑戦する心をもって頂くために、少し困難な作業でも仲間や大人の協力を得て取り組むことで、仲間とともに何事もやり遂げる自信に繋げて頂きます。さらに、6月オープン例会では、乙訓（まち）の大人に子供たちの健全な育成に必要な道徳心をもって頂くために、子供たちの手本となる大人の在り方を学ぶことで、子供たちが仲間を思いやる心を強くもてる環境づくりに繋がります。また、乙訓DREAMフェスタでは、子供たちに乙訓（まち）との繋がりの重要性を認識して頂くために、地域諸団体と同様のブースをもち、自分たちも運営として活動することで、乙訓（まち）の一部であることを実感して頂きます。そして、防災事業では、頻発化し、想定外の被害を引き起こす災害から子供たちを守るために、災害が起こった際に必要性の高い知識を学ぶことで、防災意識を備えるとともに、共助を率先して行える人財づくりに繋がります。

一年間の青年会議所活動をメンバーが全力で行い、子供たちが成長し、仲間とともに困難に前向きに挑む心を備えた姿に立ち会えることに誇りを持ちます。そして、乙訓（まち）の未来を担う人財とともに我々メンバーが、自信をもって明るい未来の創造に繋がります。

近年、乙訓青年会議所は地域の発展に寄与し、組織の存在価値を高めるべく、様々な手法を用いて運動や活動を広く発信してきましたが、情報の浸透が充分ではないため、地域の方々の認知は未だに高いとはいえません。正会員メンバーとして、乙訓青年会議所は魅力溢れる組織であるということを自負し、積極的な活動と地域の方々に対して心を揺さぶる強い発信力をもって認知度を向上させるとともに、共感や信頼を得なければなりません。

まずは、広報誌やホームページでは、地域からの認知度を向上させるために、地域の方々が求める情報を常に探求するとともに、日々の活動や運動を様々なツールを活用しながら積極的に発信することで、乙訓青年会議所の魅力を地域に広く拡散致します。そして、京都ブロック協議会会長公式訪問では、事業の参加意欲を向上させるために、京都ブロック協議会の方向性をメンバー全員で共有することで、事業に対する想いやビジョンを深く理解して頂きます。さらに、4月メモリアル100%出席例会では、乙訓青年会議所の運動の方向性を再認識するために、先輩諸兄姉が築いてこられた運動の軌跡を振り返ることで、JC活動の歴史や脈々と受け継がれる想いを共有して頂きます。また、10月例会では、乙訓青年会議所のさらなる活性化に繋げるために、出向経験者が出向先で得た経験を伝える機会を創出することで、組織の新たな魅力を感じ、出向と活動の意欲を向上して頂きます。そして、メンバーには人との出会いやさらなる成長の機会を得て頂くために、各種事業の情報提供や取りまとめを迅速かつ、丁寧に行うことで、参加者の増加に繋がります。

むすびに、広報を担う共感創造委員会として、委員会メンバー自らが青年会議所運動の本質と活動の楽しさを広く伝えられる発信力を身に付けます。そして、地域の認知度向上から得られるメンバーの誇りの醸成とともに、乙訓青年会議所ブランドの確立に繋がります。

# 2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所 委員会配属

正副理事長・監事・常任理事		共感創造委員会		青少年育成委員会	
理事長	達城 英治	委員長	山脇 裕文	委員長	山城 直也
直前理事長	三浦 靖	副委員長	谷 政憲	副委員長	田村 直毅
副理事長	小西 光	幹事	岡田 沙也	幹事	島本 崇弘
副理事長	山口 雄司	委員	鳥居 淳希	委員	石井 佑典
副理事長	藤田 真也	委員	菜島 拓朗	委員	森 夏枝
専務理事	坂元 陸	委員	畠山 武士	委員	吉田 直道
監事	岩本 伸一				
監事	田中 望麻				
常任理事	上原 史明				
総務財政委員会		人財育成委員会		地域未来創造委員会	
委員長	嶋田 剛士	委員長	下戸 一晃	委員長	林 哲司
副委員長	松宮 一貴	副委員長	河合 良忠	副委員長	中野 翔太
幹事	畠田 達也	幹事	平木 竜馬	幹事	西田 敬一
委員	今井 政樹	委員	辻 典之	委員	飯野 晋
		委員	保木 崇志	委員	住里 彰啓
		委員	山中 拓哉	委員	樋口 京四郎
				委員	安原 誠司
信賴構築委員会		魅力拡大委員会			
委員長	佐伯 昌裕	委員長	佐々木 彰吾		
副委員長	高橋 英樹	副委員長	西條 利洋		
幹事	姜 星輝	幹事	村田 朋紀		
委員	田中 炳穂	委員	金子 昇悟		
委員	中谷 洸太	委員	河地 佑紀		
		委員	小林 大希		
		委員	森 麻美		

2020年度 公益社団法人乙訓青年会議所 出向者一覧

## 公益社団法人日本青年会議所

SDGS推進会議	田中 望麻	副議長
SDGs推進会議	河地 佑紀	議員
SDGS推進会議	高橋 英樹	議員
SDGS推進会議	谷 政憲	議員
SDGS推進会議	田中 炳穂	議員
SDGS推進会議	平木 竜馬	議員
地域ビジョン確立委員会	岩本 伸一	会計幹事

## 公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会

イノベーション創出委員会	上原 史明	委員長
イノベーション創出委員会	姜 星輝	総括幹事
イノベーション創出委員会	小林 大希	副委員長
イノベーション創出委員会	島本 崇弘	委員
地域社会貢献構築委員会	山口 雄司	副委員長
地域社会貢献構築委員会	藤田 真也	小幹事
地域社会貢献構築委員会	西條 利洋	委員
地域社会貢献構築委員会	西田 敬一	委員

## 公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 京都ブロック協議会

	小西 光	副会長
国際貢献委員会	松宮 一貴	委員
JCMムーブメント創造委員会	富田 達也	副委員長
JCMムーブメント創造委員会	岡田 沙也	委員
JCMムーブメント創造委員会	河地 佑紀	委員
JCMムーブメント創造委員会	田中 炳穂	委員
新時代のリーダー育成委員会	中野 翔太	副委員長
新時代のリーダー育成委員会	河合 良忠	委員
新時代のリーダー育成委員会	田村 直毅	委員
新時代のリーダー育成委員会	菜島 拓朗	委員